

地域の誇りを胸に力走 町誕生69周年記念地区対抗駅伝競走大会

町誕生69周年記念地区対抗駅伝競走大会は10月8日、各地区、10区間を結ぶ総距離22・8キロの新コースで開催されました。

レースは後半に強さを発揮した、荒砥チームがトップでゴールテープをきり、平成30年度以来の優勝をつかみ取りました。それぞれの地区が1本の襷に思いをこめ、各選手の素晴らしい走り、盛り上がりを見せた大会となりました。各地区の誇りをかけた戦いは、来年へと引き継がれます。



●各区分 区分賞一覧

区分	距離(キロ)	走者(チーム)	タイム
1	1.9	安部 結心(荒砥)	6分34秒
2	2.5	佐藤 銀河(十王)	9分15秒
3	0.7	鈴木隆之(東根)	1分53秒
4	3.3	黒澤 叶(鮎貝)	11分01秒
5	3.6	渡部 功将(蚕桑)	11分14秒
6	0.9	井上 雅弥(荒砥)	2分52秒
7	2.1	金子 凜音(蚕桑)	7分46秒
8	2.8	堀内 郁哉(荒砥)	8分53秒
9	2.9	山本 築(荒砥)	9分02秒
10	2.1	竹田 則幸(荒砥)	7分00秒

●大会結果

順位	地区	タイム
1位	荒砥	1時間 18分 40秒
2位	蚕桑	1時間 21分 25秒
3位	東根	1時間 23分 07秒
4位	鮎貝	1時間 25分 02秒
5位	十王	1時間 25分 13秒
6位	鷹山	1時間 27分 42秒

文化・スポーツ活動において優秀な成績を収め全国大会への出場を果たされた方々に、町より激励金を交付しています。

9月に交付させていたただいた成績優秀者の方です。今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

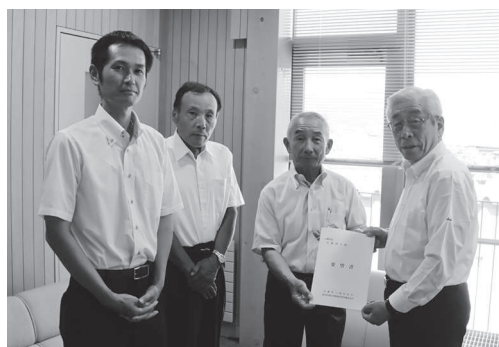
全国大会出場の栄光をたたえて 令和5年度白鷹町成績優秀者激励金の交付

上段：氏名(所属)
下段：大会名
・澁谷 理奈(鮎貝小学校6年)
・守谷 俊一郎(指導者)
日清食品カップ第39回 全国小学生陸上競技交流大会



激励金を受け取る
澁谷さん(左)守谷さん(右)

要望書を手渡す。
左から船山副代表、丸川代表、加藤理事長、佐藤町長



農地利用の最適化に向け ほ場整備に関する要望書の提出

白鷹町土地改良区(加藤嘉郎理事長)および東田尻地区再整備事業準備委員会(丸川直志代表)から、東田尻地区維持管理組合区域のほ場に関する再整備についての要望書が町に提出されました。

同ほ場の用排水路の老朽化や、農家数の減少による担い手への集中が課題であることから、大型のほ場に

より効率的な農業や遠隔操作などのスマート農業による省力化に取り組むことで、地区の農地を守っていくための、ほ場再整備事業の早期実現が要望されました。この日は加藤理事長、丸川代表、船山副代表が役場を訪れ、要望書を佐藤町長に手渡しました。

食べて、見て、遊んで、体験して——
しらたかの秋を満喫した2日間



9月23・24日の2日間、白鷹ヤナ公園あゆ茶屋を会場に「第46回白鷹鮎まつり」が盛大に開催されました。コロナ禍以降、4年ぶりの通常開催となった本イベントは、県内外からの多くの来場者で賑わい、2日間で約1万6千人が訪れました。

会場では、旬の味覚アユを香ばしく焼きあげた鮎の塩焼きを求めて大勢の人が列をなし味わたったほか、町内飲食店が出店した「しらたかうんまいもの市」で、自慢のグルメを堪能しました。また、体験コーナーも設けられ、バルーンアートや町内深山焼の制作を体験するなど親子連れで賑わいを見せました。ステージ上ではダンスやマジックショーが披露され、息を呑むパフォーマンスに歓声が上がりました。

2日間で盛大な賑わいを見せた白鷹町。今年も多くの人々が「食べて」「見て」「遊んで」「体験して」しらたかの秋を満喫しました。

しらたかの秋を駆け抜ける——
爽やかに、力強くランナーが力走

9月23日に、蚕桑小学校を発着とする、日本陸上競技連盟公認コースの第58回白鷹若鮎マラソン大会が開催されました。大会当日は、爽やかな秋晴れのもとハーフマラソン、10・5・3・2キロの各コースを舞台に、例年よりも色味を増した黄色色の田園地帯をランナーたちが力走しました。小学生から70代以上までのランナー約750人が参加し、着ぐるみをもとに参加するランナー

もいるなど、大会を盛り上げました。また、沿道には多くの観客や保護者が詰めかけ、「頑張れ」「ラスト！」「ラスト！」「ラスト！」などと声援を送り、ランナーはそれに応えるようにスピードを上げ、ラストスパートをかけてゴールに駆け込んでいました。

